

第一回信濃川下流（山地部）圏域流域協議会 塩谷川流域 議事録要旨

日時：平成 24 年 5 月 30 日 10:30～12:30

会場：長岡市栃尾支所

【配布資料】

- ・資料－1 議事次第
- ・資料－2 委員名簿
- ・資料－3 座席表
- ・資料－4 設置要綱
- ・資料－5 協議会説明資料
- ・資料－6 協議会参考資料
- ・資料－7 河川整備計画（本文）

【会議の概要】

- (1) 協議会設置要綱及び会長選出
早川委員を会長に選任
- (2) 河川整備計画と今回の流域協議会の目的について
本協議会の目的は、平成 23 年 7 月豪雨により甚大な被害のあった塩谷川を河川整備計画へ位置づけるにあたり意見をいただく旨を説明
- (3) 塩谷川の概要について
塩谷川の流域概要について説明
- (4) 平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨について
平成 23 年 7 月豪雨における降雨規模、被害状況などを説明
- (5) 塩谷川河川整備計画素案について
塩谷川の整備目標、改修方針、治水対策などを説明
- (6) 今回の整備計画変更について
(5) を踏まえて整備計画の変更文章例(案)を提案
- (7) 今後のスケジュールについて
7 月初旬に住民説明会、7 月下旬に第 2 回協議会を予定

【委員からの主な質疑意見と事務局回答】

○降雨解析の確率評価について

【委員長】 降雨解析の確率評価を刈谷田川流域で行っているが、塩谷川流域で評価した際の確率規模を示すこと。

→ **【事務局】** 第二回協議会で説明する。

○1/50 確率の流量について

【A委員】 1/50 確率の流量については、刈谷田川流域の平均雨量もしくは塩谷川流域の降雨のどちらで算出したものか。

→ **【事務局】** 塩谷川流域に降った雨を用いて流量を算出している。

○ 霞堤の存置について

【A委員】 霞堤はそのまま残すのか。

→ **【事務局】** 今回豪雨では氾濫水を迅速に河川へ排水することができ、浸水時における被害軽減効果が確認できたため、残す計画である。

○環境への影響について

【A委員】 河床掘削を行うと底生生物に強い影響が残るのではないかと。工事実施に伴い、過去の事例等を参考に極力生物等への影響が少ないように漁協と連携し、努めていただきたい。

【B委員】 改修直後でも瀬や淵が形成されるように努めていただきたい。

→ **【事務局】** 貴重な意見として環境への配慮に努めます。瀬や淵を創出するよう努めます。

【C委員】 水質調査は今後行うか。また BOD 以外の調査は行うのでしょうか。

→ **【事務局】** 人家や事業所等からの排水調査結果等は第二回協議会で説明します。

○河道の維持管理について

【C委員】 河床掘削をしても将来的に土砂が再度堆積するのではないかと。

→ **【事務局】** 河川を管理する立場から適切な河道断面を維持するため、維持管理に努める。

○堰の構造について

【B委員】 H16 年の災害復旧で設置されたブロック積みの堰は今回の洪水で壊れてしまったが、堰の構造等の検討は行っているか。

→ **【事務局】** 河川整備計画を策定する中では、堰の構造等の詳細な検討は行っていませんが、実際に改修する際は堰の構造についても意見を伺いながら検討します。

以 上